

Keio University Shonan Fujisawa Campus

SFC

慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス

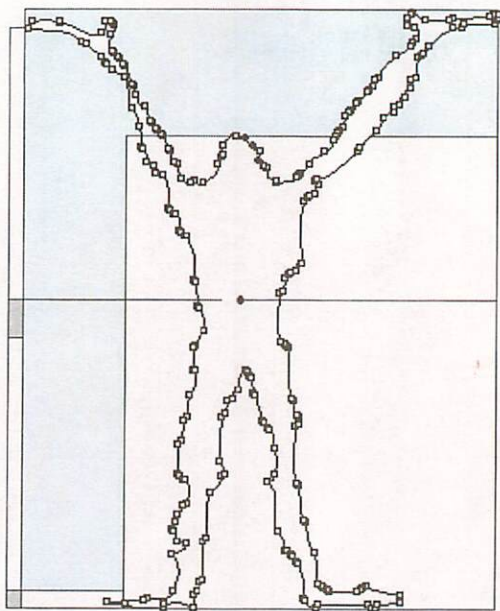
総合政策学部 環境情報学部

認可申請中(1990年4月開設予定)

若者は未来からの留学生。

若者の心をもつ
あらゆる人々に
新しい知的探索の場を
提供したい。

慶應義塾大学は
1990年
湘南藤沢キャンパス
を創設します。



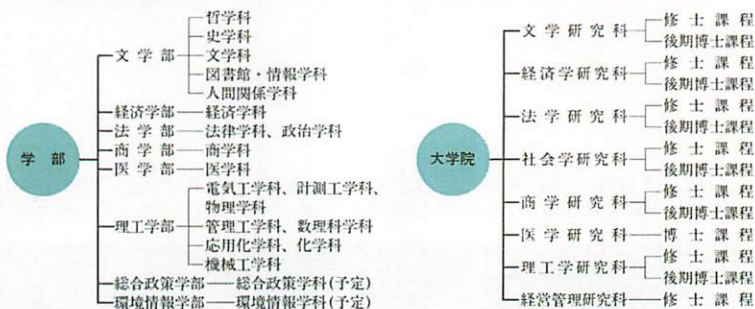
Keio University Shonan Fujisawa Campus

康應義塾は単に一所の学塾として自から甘んずるを得ず 其目的は我日本国中に於ける氣品の泉源智徳の模範たらんことを期し 之を實際
にしては居家処世立国の本旨を明にして之を口に言ふのみにあらず 躬行實踐以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり 福沢諭吉

慶應義塾の歩み

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1858 ■ 福沢諭吉、江戸築地鉄砲洲に家塾(蘭学塾)を開く | 1920 ■ 大学病院を開設 |
| 1863 ■ 蘭学塾から英学塾に転向 | 1934 ■ 日吉キャンパス開設 |
| 1868 ■ 芝新銭座に移転して慶應義塾と命名 | 1944 ■ 工学部を創設 |
| 1871 ■ 芝三田に移転 | 1948 ■ 通信教育課程(文、経済、法学部)開設 |
| 1890 ■ 慶應義塾大学創立(文学、理材、法律の3科) | 1957 ■ 商学部を創設 |
| 1898 ■ 幼稚舎(小学校)から大学科までの一貫教育制度発足 | 1958 ■ 創立100周年を祝う |
| 1906 ■ 大学院開設 | 1978 ■ 大学院経営管理研究科(ビジネススクール)創設 |
| 1917 ■ 医学部を創設 | 1981 ■ 工学部を理工学部へ改組 |
| | そして…… |
| | 1990 ■ 湘南藤沢キャンパス開設、総合政策学部、環境情報学部の2学部を創設(予定) |

慶應義塾大学の組織図



ごあいさつ

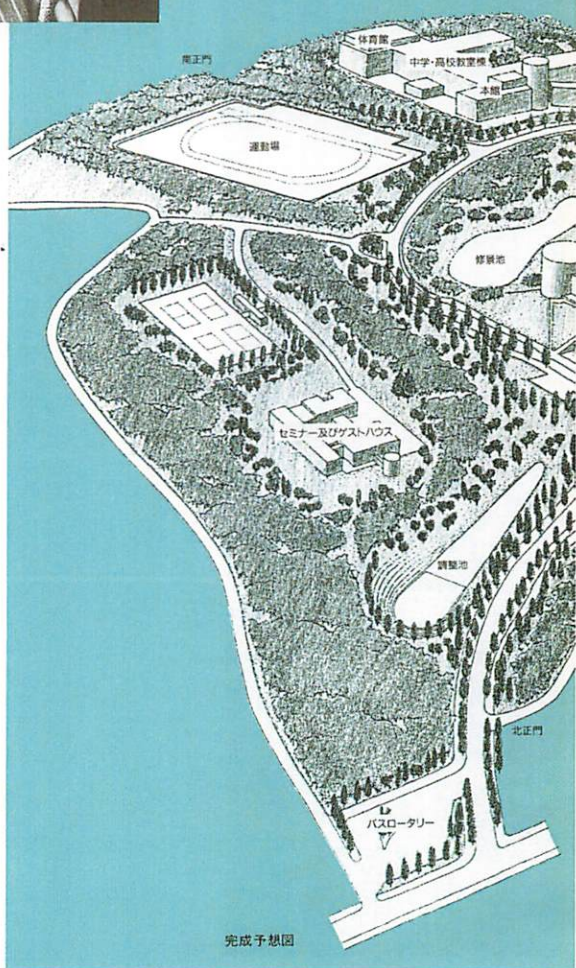
この度慶應義塾大学は、湘南藤沢の地に新キャンパスを開き、1990年4月を期して総合政策学部と環境情報学部の2学部を開設すべく、準備を進めて参りました。

安政5年の開塾以来、本塾大学は、明日の時代の要請をみすえて、それにふさわしい研究と教育を可能にするため、130有余年の歴史を通じて、三田、四谷、さらには日吉へと活動の場を展開して参りました。今回の湘南藤沢キャンパスは、時代の先導者としての伝統を継承しつつ、これからの社会の要請に正面から応えるべく構想されたものであります。

今世紀の棹尾にあたる今日の時代は、日本を含めて世界が大きく変化しつつある時代であります。このことは誰の目にも明らかですがその行方はきわめて読み取りにくい、いわば複雑で流動的、しかも不透明な時代であると言えます。この基本的状況は、今世紀のみならず次の世紀にもわたって、続くものと考えなければなりません。

このような時代の変化は、学問の分野にも重大な影響をもたらさずにはおきません。従来は学問の対象になりえなかった分野が、次々と新しく研究対象に加えられていくと同時に、個別科学間の交渉領域の研究も極めて重要な意味を持つこととなります。さらには、複雑で多面的な今日の社会の問題を解決していくには、総合的視点に立った研究が不可欠となって参ります。

このような時代の要請に応え、21世紀の学問の在り方を先取りしつつ、教育においては、豊かな発想でいろいろな角度から問題を捉え、解決に導く能力を持った人材を養成することが、新学部の使命であると考えております。



完成予想図

① 人間と環境を重視する

「環境」は、自然環境のみでなく、社会環境、人工環境など、さまざまな人間生活の場にあてはまる、現代社会の基本概念の一つです。環境とは、やさしく言えば、「身のまわりのことですが、その中心となるのはあくまでも自分自身です。自分自身の決定や行為が環境に影響し、その影響がまわりまわって自分に戻ってくる、この原理を理解し、その上でいかに行為すべきかを考える。これがあらゆる環境問題を問う根底にある発想です。

傍観者ではなく、あくまでも当事者としての立場から、問題を立て、自己の行為を通じて、これを解決してゆく実践的能力が要求されているのです。

② 情報と情報処理能力を重視する

「情報」は20世紀が生み出した最も重要な概念だと言われています。かつて物質とエネルギーという概念がそれに即応した歴史観や世界観をもたらしたように、21世紀は、あらゆるものを情報という概念に基づいて見直すことによって、大きな知的転換が期待される世紀と言えましょう。

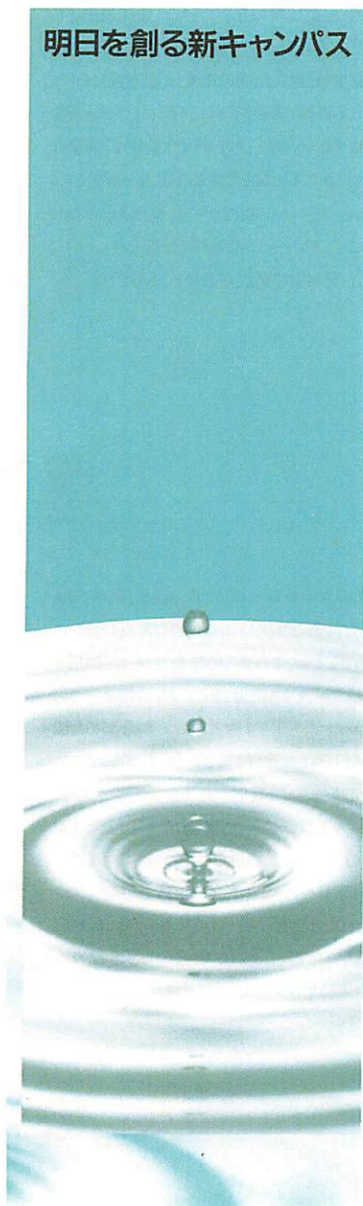
人間は道具を作り出し、これを使いこなすことによって独自の進化を遂げてきました。そうした道具の一つであるコンピュータをはじめ、情報機器を使いこなすことによって生まれる感覚が、イメージの展開を可能にします。人間を単なる物質、エネルギー系のみではなく、さまざまな信号や記号を生成・処理する存在としてもとらえることによって初めて、人間の全体像をえがきだすことができるのです。

自由な発想にもとづいて生みだされる創造の愉しみの追求。

明日を創る新キャンパス

新キャンパスを支える5つの柱

現実を個々の学問の立場から
切りとるのではなく
現実の社会的要請に応じて
新しい学の創造をはかり
既存の学問領域を超えて
未知の地平を切り開く……
湘南藤沢キャンパス(SFC)は
次の5つの考え方にもとづき
「総合政策」と「環境情報」の研究と教育を行い
実践と創造を通じての知の再編成
を試みます。



④ グローバルな視座と視野を重視する

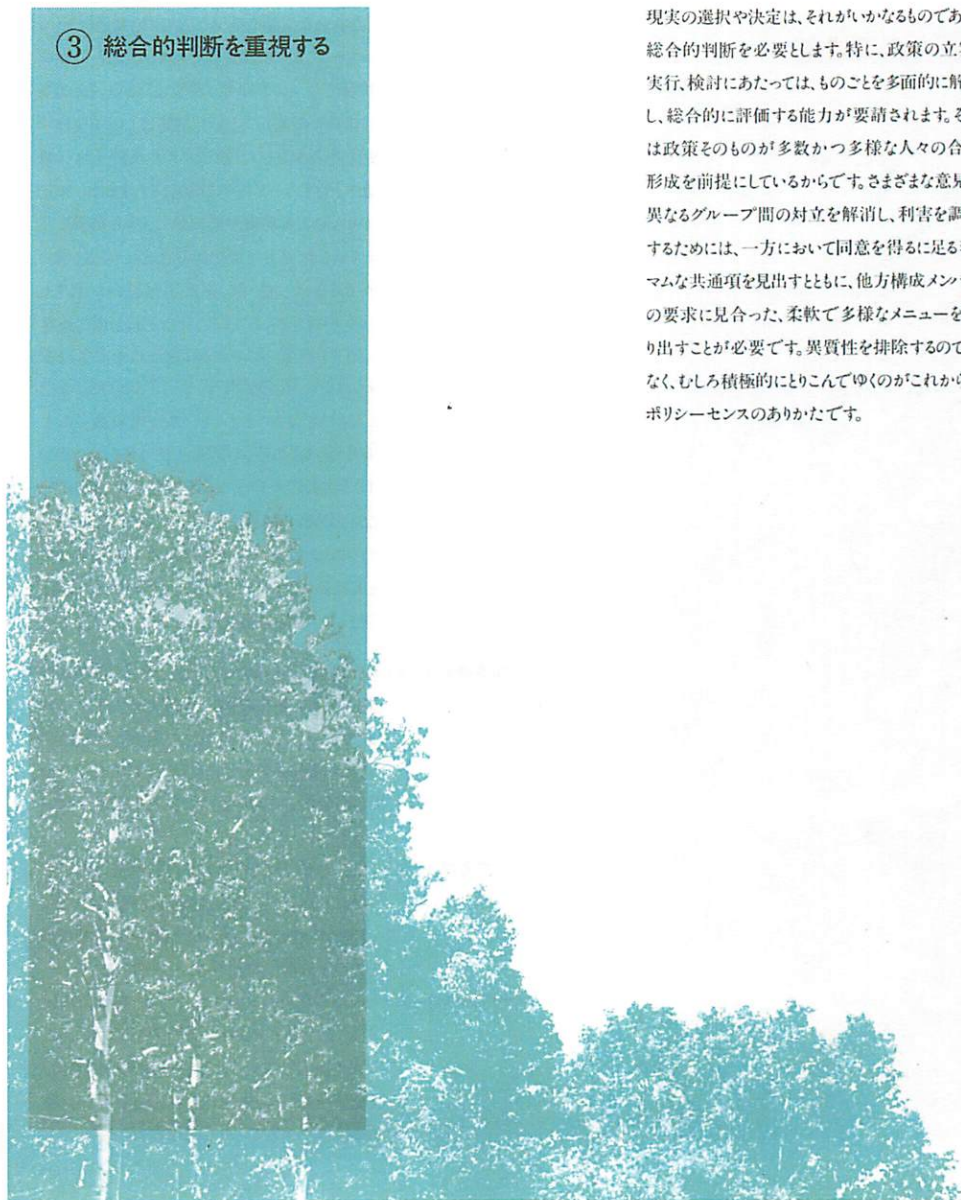
交通・通信技術の発展にともなう地球規模での相互依存関係が一段と深化する中で、国際的相互理解、異文化間の交流は、21世紀にむけて最大の課題になるでしょう。とりわけ世界の大学を直結するネットワーク化がすすむ中で、多様な文化に関する知識と言語運用能力を基礎とするコミュニケーション能力が一層要求されることとなります。グローバルな視座と視野を身につけた受信・発信型の交流が必要となるのです。

⑤ 創造性を重視する

従来の大学教育では、知識の伝達、継承、与えられた問題の解決技法の習得に重点がおかれがちでしたが、これからの社会では、自ら問題を発見し、解決する能力、さまざまな情報を一つの知識へと体系化する能力をもつ、創造型の人間開発を目指した教育がなされなければなりません。このため、あらゆる研究に共通な知的基本動作、自然・人工言語の運用能力の習熟を前提とした多様な発想と討論の場をつくる必要があります。知的的好奇心と、既成概念の束縛から解きほなされた自由な発想にもとづいて生み出される、創造の愉しみの追求、それが私達のめざす教育の基本姿勢です。

③ 総合的判断を重視する

現実の選択や決定は、それがいかなるものであれ、総合的判断を必要とします。特に、政策の立案、実行、検討にあたっては、ものを多面的に解釈し、総合的に評価する能力が要請されます。それは政策そのものが多数かつ多様な人々の合意形成を前提にしているからです。さまざまな意見の異なるグループ間の対立を解消し、利害を調整するためには、一方において同意を得るに足るミナムな共通項を見出すとともに、他方構成メンバーの要求に見合った、柔軟で多様なメニューを作り出す必要があります。異質性を排除するのではなく、むしろ積極的にとりこんでゆくのがこれからのポリシーセンスのありかたです。



環境情報学部

Faculty of Environmental Information

入学定員予定 400名

「環境」とは生物や機械など情報処理機能をもつシステムによって認知ないしは知覚された外界の総称です。この意味で「環境」と「情報」とは相互に密接な関係があります。情報は18世紀と19世紀に生み出された「物質」「エネルギー」という概念と一体になって種々の環境とそれを認知・知覚する人間の世界観や価値観に大きな影響を与えています。過去半世紀間の急速な情報技術の革新と普及に伴って、高度情報社会が到来しつつありますが、そのような社会では人間の外界に関する知覚・認知・評価も急速に変化すると考えられます。「環境情報学」という学問分野は成熟したものではありませんが、「人間環境論」「人工知能論」などの新しい研究分野の芽生えの中に、また「環境デザイン」「知識情報」といった実践的な応用分野の発展の中にその重要性が認められつつあります。環境情報学部は、これらの研究分野と実践領域を統合し、新しい知識体系の構築と望ましい人間環境を作り出すことを追求します。

〔知識情報コース〕 人間の知的活動の支援、ならびに人間を取りまく諸問題の分析に有効な「知識情報」に関する理論を学びます。また、情報化の進展に伴う社会・文化の変動を分析し、これからの社会に役立つ「知識情報」の処理ならびに活用の手法を習得します。

〔人間環境コース〕 自然・生態環境を基本に、社会環境と人間の相互作用を研究し、望ましい人間行動の理解を目指します。また、現在の様々な問題を「人間環境問題」として分析・解決する能力を開発します。

〔メディア環境コース〕 歴史と文化をよく理解した上で、情報化の進展がもたらす生活文化の変遷を学びます。また、人間の豊かな感性のもとで、「マルチメディア情報」の技術を活用し、人間にとって望ましい新しい情報環境の考え方と設計技法を習得します。

未来をデザインする知の「総合芸術」の企て、それがここに在る。

総合政策学部

Faculty of Policy Management

入学定員予定 400名

今日のような変化する社会では、適切な政策が絶えず、しかも迅速に行われる必要があります。これまでは、既存の学問の枠組の中で解決がはかられてきましたが、現に発生する問題は、一つの学問分野をはるかに越えた性格を持っています。地球環境の問題から、さまざまな国際摩擦、政府の経済運営、企業経営や個人の行動決定にいたるまで、経済学、政治学、法学、社会学といった既存の知識だけでは対応できない時代になってきました。

総合政策学部は、これまでの学問の枠をこえた横断的な知識の再編成を行い、問題解決型の新しい教育を導入し、現実の世界を正しく認識し、それに対して総合的に政策を立案、実行できる能力を養成します。ここでいう政策とは従来言われてきた、政府が行う「公共政策」にとどまりません。私企業や種々の組織体で行われる方針の立案、意思決定をも含むものです。「望ましい状態を作るための行動プラン」をいかにして生み出すか、社会や組織などの制約条件を考えながら、政策を総合的な視点からデザインする構想力、創造力が問われています。

〔政策管理コース〕 政党、地方自治体、一般企業における公共政策を中心にその基本分析方法を習得し、政策が決定される過程、具体的な政策のありかなどを研究します。

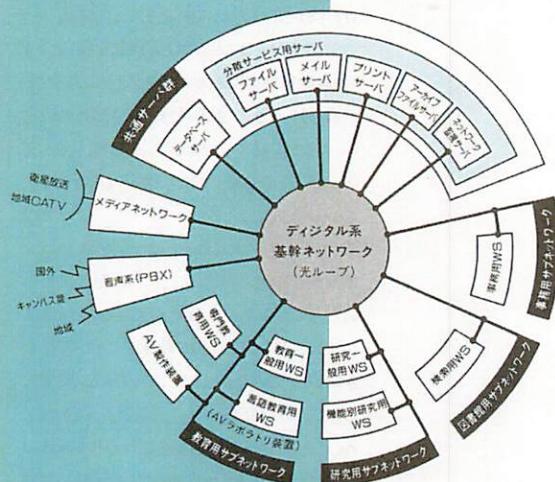
〔社会経営コース〕 文化団体、学校法人、医療法人、財団法人などの非営利組織、また、社会的公器としての企業をも含めた組織の運営における、経営政策と具体的な管理、法制度の分析などを学びます。

〔国際政策コース〕 国際機関や国際企業など、国際レベルの政策分析を学びます。国際関係法、地域研究などの基本的知識を習得し、外交政策、開発政策などを比較分析します。

いま新たなクエストへの旅立ち。

キャンパスの特色

キャンパスネットワーク



卒業後の進路

総合政策学部

①政策管理コース

政府、政党、地方自治体などの行政機関、企業の計画・総務部門、政治家、研究機関など。

②社会経営コース

財団、医療、学校法人などの非営利団体の組織運営・管理、一般企業の経営、企画、財務部門、自営企業、研究機関など。

③国際政策コース

国連・世銀などの国際機関、国際交流・対外機関、企業の国際部門、外資系企業、日系多国籍企業、研究機関など。

環境情報学部

①知識情報コース

情報産業、ソフトウェア関連企業、企業の情報管理部門、調査・研究機関など。

②人間環境コース

行政機関、企業の調査・地域開発部門、都市開発機関、研究機関など。

③メディア環境コース

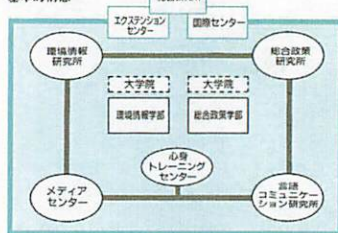
情報サービス関連企業(通信、放送、出版、広告など)、企業の企画・広報部門、独立製作者(アーティストなど)、研究機関など。

①最先端のキャンパスネットワークシステム(CNS)が導入され、データ、音声、画像などが学内で教育・研究に活用されるばかりではなく、国内外の大学や研究機関と瞬時に交信することができます。

②「心身トレーニングセンター」(仮称)を設置し、自己開発プログラムを研究するとともに豊かな自然環境のなかで心身の調和ある能力を養います。

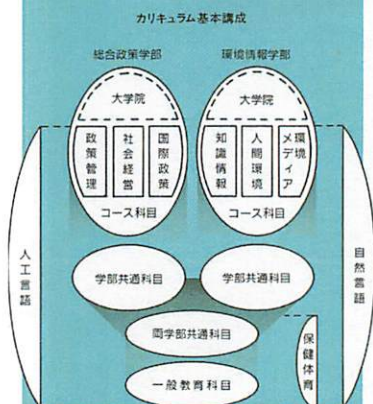
③「総合政策研究所」「環境情報研究所」「言語コミュニケーション研究所」などの設立が予定されており、高度な研究活動をはじめ、教育法の開発、他研究機関との共同研究などのプロジェクトを推進します。

研究所システムの基本的構想



あくまでもやわらかに学問をだきしめたい。

カリキュラムの基本構成



湘南藤沢キャンパスにおける両学部のカリキュラムは、新しい知を創造しようとする意欲と理念から生まれたものです。左の図が示すように、一般教育科目・両学部共通科目・学部共通科目・専門コース科目、そして大学院課程(予定)とに区分されていますが、両学部は多くの共通点をもち、選択する専門科目によってコースが決定されます。とりわけ基礎教育では、ツール(道具)としての「自然言語」と「人工言語」(コンピュータ言語)が重視される一方、「保健体育」が心身両面にわたる能力開発という観点から組み込まれ、ともに一般教育と並列して設置されます。

〔一般教育科目〕

「人文科学」「社会科学」「自然科学」の3分野に大別されていますが、SFCではこれに環境のなかでの人間の行動、人間をとりく時間的・空間的背景、言語とコミュニケーションなど同時代的な観点が加えられ、近代社会の成立・発展とその限界、未来社会の展望に焦点をあてて学びます。

〔両学部共通専門教育科目〕

「一般教育科目」と並行して学ぶ科目で、基礎的なものの見方・考え方、学問的な方法論を学びます。情報の収集・分析や、その結果をどう伝達するかといった方法など、両学部の専門教育への橋わたしをする共通の基礎科目です。

〔学部共通専門科目〕

「総合政策学部」「環境情報学部」にそれぞれ設けられている3つの専門コースに共通した学部の基礎科目で、2・3年次に選択します。総合政策学部では「政策」の立案、決定、実行および合意形成のしくみ

を学び、環境情報学部では、環境と主体をテーマに情報メディアの総合的理解や社会システムとの関係などを学習します。

〔専門教育科目〕

ここで3つのコースに分れますが、その専門教育科目は「問題理解」「分析・総合」「制御・立案」という観点から編成されています。またすべての学生が研究会に所属し、専門知識を能動的に学んでいきます。

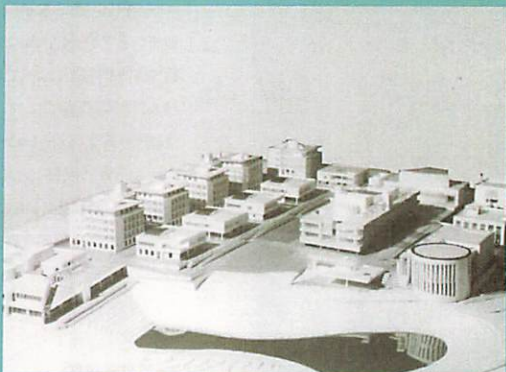
〔自然言語〕

英語、仏語、独語、中国語、朝鮮語、マレー語・インドネシア語、日本語のうちから一外国語をインテンシブ・コース(50分授業)で学び、コミュニケーションを最終目標とする言語運用能力を養成します。

〔人工言語〕

学生ひとりひとりにとってこれからの社会で必須なコンピュータ・リテラシーを身につけるため、基礎的なコンピュータ操作とコンピュータ言語を習得します。

キャンパスの立地・環境



キャンパス周辺は豊かな自然が残されていますが、構内にもシラカシやクスギなどの植栽が行なわれ、緑に囲まれた美しい環境が生まれます。藤沢市では、キャンパスの北隣に壮大な「健康と文化の森」構想を推進しており、将来これが完成すると、イベントスタジアム、イベントホール、インテリジェントセンター、高度医療機関などの施設を擁する一大文化センターが出現し、湘南藤沢キャンパスはその中核としての役割も果たすことになります。

〈主な交通機関〉

- JRF東海道線辻堂駅下車、北方向へ約7km
 - 小田急江の島線湘南台駅下車、西方向へ約3.5km
 - 東名高速道路厚木インターチェンジから約7km
 - 路線バスでは辻堂駅から25分、湘南台駅から15分
- また、将来は高駅を結ぶ新交通システムが予定されています。

[illegible]



慶應義塾



Keio University
SFC

慶應義塾大学
湘南藤沢キャンパス

〈お問い合わせ〉

慶應義塾藤沢新学部開設準備室

〒108 東京都港区三田2-15-45

Tel.(03) 453-4511(大代表)内線2390